

## ワークショップ7

「消化管生理機能検査法の発展：方法論から機能性消化管疾患研究を切り拓く」

Development of physiological function testing for gastrointestinal tract:  
Opening up the research for the functional disorders of the gastrointestinal  
tract by methodology

司会 富永和作（大阪医科大学先端医療開発学講座）  
伊原栄吉（九州大学大学病院肝臓膵臓胆道内科）

「機能性」の消化管疾患は、異常な機能障害を伴う消化管運動機能障害（アカラシア、胃麻痺、慢性特発性偽性腸閉塞症など）と、軽度な機能異常に加えてその多くは臓器知覚過敏が絡むことで辛い症状を訴える機能性消化管障害（機能性胸焼け、機能性ディスペプシア、過敏性腸症候群など）の2つに分類される。これら疾患群は、「機能性」という性質からこれまで詳細な病態評価は困難で、根本的な治療法は確立されていない。最近、高解像度食道内圧検査、食道内 pH/インピーダンス検査、CineMRI、<sup>13</sup>C 呼気試験を用いた各種機能検査法及び内視鏡下アドミッタンス法などの消化管生理検査機器の発展に伴って、病態解明が行われつつある。一方、トランスレーショナル及びリバーstransレーショナルリサーチの観点から、動物モデルを用いた基礎的研究や内視鏡下生検組織検体を用いて解析する方法論も発展し、「機能性」の消化管疾患の病態解明が進んでいる。このセッションでは、消化管生理機能検査法の枠にとどまらず、基礎的及び臨床的研究として幅広い方法論の観点から「機能性」の消化管疾患研究を切り拓く研究を幅広く募集したい。「機能性」の消化管疾患研究の現状と今後の進むべき方向性について議論したい。